

# 古文ドリル：過去の助動詞「き」識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：過去の助動詞「き」

過去の助動詞「き」は、**連用形接続**（カ変・サ変は例外あり）。活用が変則的で、入試の頻出識別テーマ。

活用形	形	用例
未然	せ	行か <b>せ</b> ば（反実仮想）
連用	（なし）	—
終止	き	行き <b>き</b> 。
連体	し	行き <b>し</b> 人
已然	しか	行き <b>しか</b> ば
命令	（なし）	—

意味：自分が経験した過去（実体験）

## カ変・サ変の例外

動詞	未然「せ」	連体「し」	已然「しか」
カ変「来（く）」	こ・き接続不可	来（こ） <b>し</b> / 来（き） <b>し</b>	来（こ） <b>しか</b>
サ変「す」	（せ） <b>し</b> =せし	<b>せし</b>	<b>せしか</b>

→ 「来し」「せし」のように特殊形を取る。

## 識別の鉄則

1. **直前は連用形**（カ変・サ変のみ例外）
2. 「**し**」が出てきたら**多くは過去連体形**（「形容詞語幹＋し」と混同注意）
3. 「**しか**」は**已然形＋ば**（過去原因・確定）

4. 「せば〜まし／なまし／けむ」は未然形（反実仮想）
5. 「し」が体言の前 → 連体形ほぼ確定
6. 「しか」が「ども」を伴うと逆接（〜したけれども）

## 「き」と「けり」の違い

助動詞	ニュアンス
き	自分が経験した過去
けり	伝聞・気づき（〜たのだなあ）

例： - 行きき：（自分が）行った - 行きけり：行ったのだなあ（気づき・伝聞）

## 識別注意：紛らわしい「し」「しか」

- 副助詞「し」（強意）：「今しも」「春しくれば」
  - 形容詞シク活用語尾「し」：「美し」「悲し」
  - サ変動詞「す」連用形「し」：「ものし給ふ」の「し」
  - 副詞「しか」：「しか思ふ」（そう思う）
- 直前接続・下接語で判断する。

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。  
 こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「し」を見たら まず連体形 と疑え

過去「き」の連体形「し」が古文で最頻出。 - 「し+体言」 → 過去連体形ではほぼ確定（行きし人・見し花・思ひし夜） - 「し+句点」 → 過去終止形「き」ではないので、別の語の可能性  
 → 「し」を見たら **直後を確認**。体言があれば連体形・過去で即答。

### コツ② 「しか」3点セットで覚える

- 「しかば」 → 已然形+ば → 過去の **原因・確定**（〜したので）
- 「しかども」 → 已然形+ども → 過去の **逆接**（〜したけれども）
- 「しか」単独で文末 → こその結び（已然形）

→ 「しか」が出てきたら **已然形** で即答。

### コツ③ 「せば～まし」は反実仮想の合図

「せば」「ましかば」「ませば」が前にあって、文末に「まし」があれば、未然形+反実仮想。「せ」は「き」の未然形。例：「世の中にたえて桜のなかり**せば**春の心はのどけからまし」

→ 「せば」を見たら未然形・反実仮想で即答。

### コツ④ カ変・サ変の特殊形は丸暗記

- カ変「来」 → 「こし」「こしか」「きし」「きしか」(こ/き両方OK)
- サ変「す」 → 「せし」「せしか」(必ず「せ」)

→ 「せし」「せしか」を見たら **サ変「す」+過去「き」** で即答。

### 試験本番でのチェック順序

1. 「し」+体言 → 過去「き」連体形
2. 「しか」+ば/ども → 過去「き」已然形
3. 「せば」～「まし」 → 過去「き」未然形+反実仮想
4. 「せし」「こし」 → サ変・カ変+過去「き」

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- 形容詞シク活用の語尾「し」(美**し**・悲**し**)と過去連体「し」は別物 → 直前が動詞連用形か形容詞語幹かで判別
- 副助詞「し」(強意): 「今**し**も」「春**し**くれば」 → 動詞連用形に下接していない
- 副詞「**しか**」(そう): 「**しか**思ふ」 → 文頭近くにあり下接語と関係しない

## 採点表

- 基礎 (Q1～Q20): /20
- 標準 (Q21～Q50): /30
- 応用 (Q51～Q80): /30
- 入試レベル (Q81～Q100): /20
- 合計: /100

## 【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

---

純粋な四活用形の識別。

---

Q1. 次の傍線部「き」を識別せよ。

我れ昨日、京に行きき。

---

---

Q2. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行きし人。

---

---

Q3. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

行きしかば、人ありき。

---

---

Q4. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見せば、心慰めなまし。

---

---

Q5. 次の傍線部「き」を識別せよ。

昨夜、夢を見き。

---

---

Q6. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方。

---

---

Q7. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

友、訪ね来**しか**ば、喜びけり。

Q8. 次の傍線部「き」を識別せよ。

我れ京に住み**き**。

Q9. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我が思ひ**し**人。

Q10. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月見**しか**ば、心安らぎぬ。

Q11. 次の傍線部「ませ」を識別せよ。

春咲か**ませ**ば、雪解けなまし。

Q12. 次の傍線部「き」を識別せよ。

嵐に倒れ**き**。

Q13. 次の傍線部「し」を識別せよ。

唐土に渡り**し**僧。

Q14. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

雨降り**しか**ば、出でられず。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

古典を学び**せ**ば、いかに賢からまし。

Q16. 次の傍線部「き」を識別せよ。

物書**き**き。

Q17. 次の傍線部「し」を識別せよ。

嘆**し**夜。

Q18. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月隠れ**しか**ば、夜暗かりき。

Q19. 次の傍線部「き」を識別せよ。

笛を吹**き**き。

Q20. 次の傍線部「し」を識別せよ。

過**ぎ**し春。

## 【第2部】標準編 (Q21～Q50)

---

サ変・カ変例外、係り結び、文末の連体留めなどが混じる。

---

---

Q21. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物し給ひける。

---

---

Q22. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我が見し夢、忘れがたし。

---

---

Q23. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

知りしかども、言はず。

---

---

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

心ありせば、いかにあはれと思はまし。

---

---

Q25. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春しくれば、花咲く。

---

---

Q26. 次の傍線部「き」を識別せよ。

親に孝ある人なりき。

---

---

Q27. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ思ひしこと、皆実となれり。

Q28. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

鶯鳴きしかば、春来にけり。

Q29. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雨降りせば、行かざらまし。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと楽しきことなりけり。

Q31. 次の傍線部「き」を識別せよ。

帝、御覧じき。

Q32. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帝、御覧じし御文。

Q33. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月隠れしかども、なほ仰ぐ。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

心知り**せ**ば、必ず告げまし。

Q35. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行く春を惜**し**みし。

Q36. 次の傍線部「し」を識別せよ。

「我が見**し**人」と詠ふ。

Q37. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

物言ひ**しか**ば、答へなまし。

Q38. 次の傍線部「き」を識別せよ。

父、世を捨**て**き。

Q39. 次の傍線部「し」を識別せよ。

世に語り伝ふる**こ**とこそ、心ありぬべけれ。さ思ひ**し**昔。

Q40. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

友、来**しか**ば、酒酌み交はしけり。

Q41. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ若くあり**せ**ば、いかにせまし。

Q42. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ書か**せ**し書。

Q43. 次の傍線部「き」を識別せよ。

命長くもあり**き**。

Q44. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来**し**方行く末。

Q45. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

雪降り積もり**しか**ば、道見えず。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

命あり**せ**ば、また会はまし。

Q47. 次の傍線部「し」を識別せよ。

花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふる眺め**せ**し間に。

Q48. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

都を出で**しか**ば、心細し。

Q49. 次の傍線部「き」を識別せよ。

古き世に栄え**き**。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行か**し**むる。

標準編 /30

## 【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

係り結び・複合語・敬語・複雑な接続の組み合わせ。

Q51. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ぞ／知**り**し。

Q52. 次の傍線部「し」を識別せよ。

なむ／聞**き**し。

Q53. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

こそ／思**ひ**しか。

Q54. 次の傍線部「し」を識別せよ。

や／見し。

Q55. 次の傍線部「し」を識別せよ。

か／聞こえし。

Q56. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

思ひしかど、言はざりき。

Q57. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我が捨てし家、人住まず。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし行かせましかば、悔いず。

Q59. 次の傍線部「ん」を識別せよ。

命のあらんかぎり、君を思はむ。

Q60. 次の傍線部「し」を識別せよ。

桜散りしころ、雪降りき。

Q61. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

親病み**しか**ば、看取り侍りき。

Q62. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ仕う奉り**し**君。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし神あり**せ**ば、なほ祈らまし。

Q64. 次の傍線部「し」を識別せよ。

古へに聞こえ**し**人々。

Q65. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

言ひ**しか**ば、いと恥づかし。

Q66. 次の傍線部「し」を識別せよ。

露ばかり残り**し**思ひ。

Q67. 次の傍線部「き」を識別せよ。

心の鬼に責められ**き**。

Q68. 次の傍線部「し」を識別せよ。

道のほとりに紫の生ひたりし草。

Q69. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

もの言ひしかば、聞き入れまし。

Q70. 次の傍線部「し」を識別せよ。

その後、影をだに見し人なし。

Q71. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

「来や」と言ひしかば、来ぬ。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ知りせば、教へまし。

Q73. 次の傍線部「し」を識別せよ。

暮るるほどに着きし舟。

Q74. 次の傍線部「し」を識別せよ。

命しかなしき。

Q75. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

思ひ**しか**ど、口に出さず。

Q76. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帝の見**し**夢に告げあり。

Q77. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

風吹き**せ**ば、波立たまし。

Q78. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いま**し**散らむ。

Q79. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

心強かり**しか**ど、涙落ちぬ。

Q80. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我れ恋ひ**し**人、もはやあらず。

応用編 / 30

## 【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出。複合パターン・古典作品からの抜粋。

Q81. 次の傍線部「し」を識別せよ。(伊勢物語)

昔、男ありけり。京にありわびて東の方に住むべき国求めにとて行きけり。…さて、なほ東へ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。…旅をしぞ思ふ。

Q82. 次の傍線部「し」を識別せよ。(古今集・在原業平)

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして

Q83. 次の傍線部「し」を識別せよ。(古今集・小野小町)

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

Q84. 次の傍線部「し」を識別せよ。(百人一首・崇徳院)

瀬を早み岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

Q85. 次の傍線部「し」を識別せよ。(土佐日記)

京に思ふ人なきにしもあらず。さるは、便りごとに物も絶えず得しかど。

Q86. 次の傍線部「し」を識別せよ。(更級日記)

あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたりし人。

Q87. 次の傍線部「し」を識別せよ。(源氏物語・桐壺)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

Q88. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(徒然草)

いみじき名馬なれども、悪しき名のうたて覚ゆなり。ことに名利を求めめば、いみじき名馬なりと思ひ**しか**ども、なほ売り給ひつ。

Q89. 次の傍線部「し」を識別せよ。(枕草子)

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だち**たる**雲のほそくたなびきたる。

Q90. 次の傍線部「せ」を識別せよ。(古今集・紀貫之)

結ぶ手のしづくに濁る山の井のあかでも人に別れぬる**かな**。…逢はずあ**ら**せばあひしまさらず。

Q91. 次の傍線部「し」を識別せよ。(大鏡)

御年五十六にて隠れ**させ**たまひに**しか**ば、御諡を村上の御門と申す。

Q92. 次の傍線部「し」を識別せよ。(平家物語)

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。…おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のご**とし**。

Q93. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(方丈記)

元暦の頃、大なるふること侍り**しか**ば、よに有り難き事なりき。

Q94. 次の傍線部「し」を識別せよ。(伊勢物語・芥川)

白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを。

Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。(伊勢物語・芥川)

白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを。…あらずもあらず、あらずもあらせず。

Q96. 次の傍線部「し」を識別せよ。(源氏物語・若紫)

雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを。

Q97. 次の傍線部「しか」を識別せよ。(大鏡)

入道殿は、…我が御身も、いとよく舞ひたまひしかば、はやくよりよろづの遊びをもしたまひき。

Q98. 次の傍線部「し」を識別せよ。(源氏物語・桐壺)

朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふ積もりにや、いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。…前の世にも、御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひぬ。

Q99. 次の傍線部「し」を識別せよ。(古今集・在原業平)

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやしやと

## 採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
  - 標準 (Q21~Q50) : /30
  - 応用 (Q51~Q80) : /30
  - 入試レベル (Q81~Q100) : /20
  - **合計 : /100**
- 

## あとがき

「き」識別の核心： - 「き」**終止形** は文末 - 「し」**連体形** は体言の前、または係り結び（ぞ・なむ・や・か）の結び - 「しか」**已然形** は「ば」（原因）・「ども／ど」（逆接）と接続、または「こそ」の結び - 「せ」**未然形** は反実仮想構文「せば～まし／なまし／ましかば」 - **カ変・サ変は例外**：来し・来しか・来せ／せし・せしか - **副助詞**「し」「しか」は強意で別物。直前接続を確認

「き」と「けり」の使い分けも重要。自分の体験 → き／伝聞・気づき → けり。

---

**著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太